

第33回日本放射光学会年会・ 放射光科学合同シンポジウム (JSR2020) プログラム

1. 開催日 2020年1月10日(金), 11日(土), 12日(日)
2. 場所 ウィンクあいち(愛知県産業労働会館 愛知県名古屋市中村区名駅4丁目4-38)
3. JSR2020のウェブサイトについて
ウェブサイトのURLは、以下の通りです。
<http://www.jssrr.jp/jsr2020/>
4. 参加費(12月1日以降) 会場受付でお支払いください。

放射光学会員	7,000円	学生	4,000円
共催団体(特別賛助団体)会員職員	8,000円	学生	4,000円
共催団体(上記以外)会員・職員	9,000円	学生	4,000円
非会員	13,000円	学生	5,000円
懇親会	7,000円	学生	4,000円
5. 発表について
 - (1) 口頭発表について
 - 一般口頭発表の時間は、発表10分、質疑応答5分の合計15分です。
 - (2) 液晶プロジェクターについて
 - 発表は、各自のノートパソコンで行ってください。
 - 液晶プロジェクターとノートパソコンはD-sub15ピンコネクタ(ピンが5本×3段の通常のもの)で接続します(ケーブルは主催者側で用意)。
 - 上記液晶D-subコネクタとの接続にアダプタが必要な場合は各自で持参ください。
 - 接続やパソコンの立ち上げは講演者ご自身が行ってください。(機器や操作のトラブルによる遅れは発表時間に含めます)。

重要：セッション開始前や休み時間を利用して事前に動作をチェックし、本番でタイムロスがないようにしてください。
 - (3) ポスター発表について

【ポスターボード】施設報告を含む全てのポスターについて、発表1件あたり縦2100mm×横900mm×1枚(A0サイズ縦。縦横比にご注意下さい)。貼付用品は会場に準備します。

【掲示について】11日は11:30から、12日は9:30からポスターを掲示できます。撤去は、11日は18:00までに、12日は16:00までに完了してください。
 - (4) 施設報告
施設報告のポスターは、11日11:30~12日15:00の間、常時掲示できます。撤去は、12日16:00までに完了してください。
6. 学生発表賞
学生が第一著者かつ発表者の発表を対象として、優れた口頭発表・ポスター発表には、「学生発表賞」を贈呈します。この賞は学生発表賞選考委員会による選考で決定します。

7. 会場へのアクセス、会場周辺地図

(1) シンポジウム会場について

シンポジウム会場は、ウインクあいち（愛知県産業労働会館 愛知県名古屋市中村区名駅 4 丁目 4-38）です。

(2) シンポジウム会場へのアクセスについて（周辺地図参照）

JR 名古屋駅 桜通口から右前方，横断歩道直進，ミッドランドスクエアの裏，交差点を過ぎて右手（徒歩 5 分）。

その他，地下街を経由する方法もあります。アクセスの詳細は，下記サイトをご覧ください。

<https://www.winc-aichi.jp/access/>



(3) 懇親会会場について

懇親会会場は，名鉄グランドホテル 11階柏の間です。

名鉄グランドホテルは，シンポジウム会場から名古屋駅前経由（地図矢印）約 8 分，名鉄百貨店メンズ館の上です。1 階あるいは B1 階からホテル専用エレベータ（エレベータホール右側の 3 機）をご利用ください。

名鉄グランドホテルへのアクセスの詳細は下記サイトをご覧ください。

<https://www.meitetsu-gh.co.jp/access/>

8. LAN 利用について

無線 LAN は，講演会場，館内ロビーで利用可能です。詳細は当日配布となるプログラム冊子をご確認下さい。

会場周辺地図



■特別講演

1月10日(金) 13:00-14:00 (A会場)

『放射光源を用いた原子分子科学研究の30余年の歩み』

上田潔(東北大学多元物質科学研究所) 60分

■放射光科学賞受賞講演

1月10日(金) 15:00-16:00 (A会場)

『軟X線放射光を用いた先端電子状態分光の開発と物性研究の開拓』 辛植(東京大学・総長室・特別教授室) 60分

■学会奨励賞受賞講演

1月10日(金) 16:00-16:30 (A会場)

『共鳴非弾性軟X線散乱による電子状態解明およびコヒーレント軟X線散乱による時空間分解計測の開発』

横山優一(高輝度光科学研究センター) 30分

■高良和武先生・佐々木泰三先生追悼講演会

1月10日(金) 16:30-17:00 (A会場)

『放射光科学を先導された高良和武初代会長を偲んで』

雨宮慶幸(高輝度光科学研究センター) 30分

1月10日(金) 17:00-17:30 (A会場)

『佐々木泰三先生の思い出』

宮原恒昱(首都大学東京大学院理学研究科物理学専攻 客員教授・名誉教授) 30分

■招待講演

※各オーラルセッション内で行ないます。

オーラル 1B 産業利用

1月11日(土) 9:00-9:30 (B会場)

X線非弾性散乱によるSiGe ($x=0.72$) 単結晶のフォノン分散測定 臼田宏治(キオクシア株式会社) 30分

オーラル 3B X(回折・散乱)

1月11日(土) 15:00-15:30 (B会場)

放射光X線回折による層状物質TiS₂の層間相互作用の研究 笠井秀隆(筑波大学) 30分

オーラル 4C VSX(固体)

1月11日(土) 16:25-16:55 (C会場)

ARPESで探る新奇トポロジカル物質の電子状態 佐藤宇史(東北大学) 30分

オーラル 1D XFEL

1月11日(土) 9:45-10:15 (D会場)

SPring-8低エミッタンス入射器としてのSACLAの利用 原徹(理化学研究所) 30分

オーラル 2D VSX(原子分子)

1月11日(土) 11:10-11:40 (D会場)

放射光を用いた極端紫外・アト秒領域のコヒーレント制御 彦坂泰正(富山大学) 30分

オーラル 3D X(分光・蛍光)

1月11日(土) 15:30-16:00 (D会場)

蛍光X線ホログラフィーによる構造・機能材料の元素選択局所構造解析 木村耕治(名古屋工業大学) 30分

オーラル 3E 赤外・テラヘルツ光

1月11日(土) 16:00-16:30 (E会場)

顕微赤外分光法で地球の初期微生物化石に生体分子の痕跡を探す 伊規須素子(海洋研究開発機構) 30分

オーラル 7C X(XAFS)

1月12日(日) 16:00-16:30 (C会場)

XAFSにおける非球形多重散乱の効果 畑田圭介(富山大学) 30分

オーラル 5D イメージング

1月12日(日) 9:45-10:15 (D会場)

走査型軟X線顕微鏡(STXM)による生体分子の定量的イメージング 伊藤敦(東海大学) 30分

オーラル 6D ビームライン・測定器

1月12日(日) 11:10-11:40 (D会場)

無酸素Pd/Tiを利用した非蒸発型ゲッターの開発と展望 間瀬一彦(高エネルギー加速器研究機構) 30分

オーラル 7D 生物

1月12日(日) 15:00-15:30 (D会場)

SEC-SAXSによる分子間相互作用測定解析システム 清水伸隆(高エネルギー加速器研究機構) 30分

オーラル 5E VSX(表面)

1月12日(日) 9:00-9:30 (E会場)

軟X線深さ分解XAFS/XMCD法による表面・界面のオペランド観察への挑戦

雨宮健太(高エネルギー加速器研究機構) 30分

オーラル 8E 加速器(光源)

1月12日(日) 16:25-16:55 (E会場)

SAGA-LSにおけるハイブリッド型3極超伝導ウィグラー開発とその長期運用

江田茂(九州シンクロトロン光研究センター) 30分

■企画講演

企画講演 1

『情報科学を駆使した最先端放射光イメージング』

1月11日(土) 9:00-11:40 (A会場)

近年、放射光科学において情報科学・データ駆動科学の導入が強く求められており、2018年の本学会では、企画講演「情報科学を活用した放射光科学の新展開」が開催された。現在、「情報科学・統計数理の最先端の方法論」と「計測・解析技術」の高度な融合によって従来の計測限界の突破を実現する情報計測CREST・さきがけ領域研究が立ち上げられ、放射光計測をターゲットとした多くの融合研究課題が進められている。本企画講演では、それらの中でも先端計測技術の発展とともに可能となった放射光イメージング計測に焦点をあて、情報科学やデータ駆動科学的手法を活用した最先端放射光イメージングの研究を紹介する。また、本企画講演を、今後のさらなる融合研究の契

機とし、それに基づいた放射光科学の発展の礎とする。

員会委員長)

30分

司会 岡島敏浩 (あいちシンクロトロン光センター)

5. コウリションステーションの整備構想

高田昌樹 (光科学イノベーションセンター・東北大学)

30分

1. 趣旨説明: データ駆動科学による放射光科学の発展

赤井一郎 (熊本大学) 5分

2. 情報計測領域 (CREST・さきがけ研究) の紹介

雨宮慶幸 (高輝度光科学研究センター) 10分

3. ベイズ計測 岡田真人 (東京大学) 20分

4. データ同化によるフェーズフィールドモデリングの深化
長尾大道 (東京大学) 20分

5. 情報科学を活用した XAFS イメージング解析

青西亨 (東京工業大学) 15分

休憩 10分

司会 水牧仁一朗 (高輝度光科学研究センター)

6. 超圧縮センシングによるミリ秒 X 線トモグラフィ法の開発と展望
矢代航 (東北大学) 20分

7. X 線小角散乱-CT 法と計算科学の融合による可視化手法の開発と展望
小川紘樹 (京都大学) 20分

8. スパースモデリングを活用したコヒーレント軟 X 線回折イメージングの解析手法

山崎裕一 (物質・材料研究機構) 20分

9. X 線自由電子レーザーを用いたコヒーレント回折イメージングの高度化
木村隆志 (東京大学) 20分

企画講演 2

『次世代放射光施設計画の推進状況(2)』

1月11日(土) 15:00-18:00 (A会場)

令和元年度から、官民地域パートナーシップによる次世代放射光施設(軟 X 線向け高輝度 3 GeV 級放射光源)の整備が本格的に開始されている。立地場所における土地造成や基本建屋の詳細設計と並行して、加速器の設計が行われ、各要素機器の発注準備が進められている。ビームラインに関しては、検討委員会における検討により、光源の基本性能や第 1 期に整備する 10本のビームラインの概要が決定した。計画の進捗状況と今後の見通しなどについて学会員に報告したい。

司会 内海渉 (量子科学技術研究開発機構)

1. 次世代放射光プロジェクトの概要及び進捗状況

内海渉 (量子科学技術研究開発機構) 40分

2. 次世代放射光の光源・光学系 高橋正光 (量子科学技術研究開発機構) 30分

3. 次世代放射光施設ビームライン構想—コンセプトと第 1 期整備ビームラインラインアップ—

有馬孝尚 (東京大学・理研・次世代放射光施設ビームライン検討委員会委員長) 30分

休憩 20分

4. 共用ビームライン (3 本) の整備構想

雨宮慶幸 (JASRI・次世代放射光施設利用研究検討委

企画講演 3

『協奏的量子ビーム研究による科学の最前線—他の量子ビームを知ってみよう—』

1月12日(日) 9:00-11:40 (B会場)

2017年に SPring-8 が供用開始して 20周年、2019年に J-PARC も 10周年迎え、量子ビーム大型施設がサイエンスに多く取り入れられるようになった昨今、量子ビーム間あるいは施設間の情報共有の場が必要不可欠となってきた。この大型施設の節目を機に、放射光 X 線に加え、中性子、ミュオンといった量子ビーム研究のシンポジウムを企画する次第である。本シンポジウムでは各量子ビームの利点や相補的に利用することによる利点に関して、学生・若手研究者を中心に講演を行う。

司会 本田孝志 (高エネルギー加速器研究機構)

1. 量子ビームの協奏的利用の今とこれから

本田孝志 (高エネルギー加速器研究機構) 10分

2. SPring-8 BL07LSU と SACLA を用いた光誘起磁気ダイナミクスの時間分解測定

山本航平 (分子科学研究所) 30分

3. ミュオンスピン緩和で見る機能性材料のスピンゆらぎ
足立匡 (上智大学) 30分

休憩 15分

4. 放射光と中性子を相補的に利用した結晶性高分子の構造観察
松葉豪 (山形大学) 30分

5. スピンコントラスト中性子散乱を用いた複合材料の構造解析
三浦大輔 (山形大学) 15分

6. 意見交換

本田孝志 (高エネルギー加速器研究機構) 30分

企画講演 4

『X 線吸収分光におけるラウンドロビン・データベースを巡る状況』

1月12日(日) 9:00-11:00 (C会場)

大学や公的機関等で得られた様々な計測データをデータベースとして公開し活用していくことは、科学技術の発展だけでなく、産業利用の観点からも重要である。それには、各施設で計測されるデータの相互検証が不可欠であり、その代表的な取り組みがラウンドロビンである。本企画講演では、材料評価の手法として産官学の広いユーザーに利用されている X 線吸収分光に関して、ラウンドロビンおよびデータベースを巡る状況について情報を共有し、今後の展開を議論することを目的とする。

司会 木村正雄（高エネルギー加速器研究機構）

1. 趣旨説明
木村正雄（高エネルギー加速器研究機構） 10分
 2. 光ビームプラットフォームでの取り組み概要
渡辺義夫（科学技術交流財団あいちシンクロトロン光センター） 15分
 3. 硬 X 線 XAFS ラウンドロビン実験
君島堅一（高エネルギー加速器研究機構） 20分
 4. 軟 X 線 XAFS ラウンドロビン
太田俊明（立命館大学） 20分
- 休憩 5分
5. 硬 X 線 XAFS データベースにむけて
朝倉清高（北海道大学） 20分
 6. NIMS 材料データベース・放射光研究データリポジト
リの接点 石井真史（物質・材料研究機構） 15分
 7. 産業利用でのラウンドロビン・データベースへの期待
山口浩司（住友電気工業㈱） 15分

企画講演 5

『次世代 X 線画像検出器と期待されるサイエンス』

1月12日（日） 15:00-17:40（B会場）

次世代の X 線画像検出器として、読出速度、ダイナミックレンジを大幅に向上させる硬 X 線向け CITIUS 検出器と軟 X 線向けの sxCMOS の開発が進められている。また、間接型 X 線画像検出器も 200 nm を解像できるまで性能が向上してきた。そこで東北放射光や SPring-8-II といった高輝度光源と検出技術の進歩を念頭に、どのような放射光利用の将来を切り拓いていくのか、検出技術と具体的な可能性の例を皆様と共有しつつ議論を行いたい。

司会 宮脇淳（東京大学物性研究所）

1. 趣旨説明 宮脇淳（東京大学物性研究所） 5分
2. 間接型高空間分解能検出器の現状と将来展望
亀島敬（高輝度光科学研究センター） 25分
3. 放射光イメージングの現状と将来展望
上杉健太郎（高輝度光科学研究センター） 25分
4. CITIUS 検出器の現状と期待される性能
初井宇記（理化学研究所） 25分
5. コヒーレント回折イメージングと CITIUS への期待
高橋幸生（東北大学） 25分
6. 軟 X 線検出 CMOS イメージセンサ
須川成利（東北大学） 25分

7. 軟 X 線イメージングと sxCMOS への期待

山崎裕一（物質・材料研究機構） 25分

8. まとめ

宮脇淳（東京大学物性研究所） 5分

■施設報告

1月11（土）～1月12日（日）

ホワイエ

大阪大学蛋白質研究所、科学技術交流財団あいちシンクロトロン光センター、九州大学シンクロトロン光利用研究センター、高エネルギー加速器研究機構物質構造科学研究所、佐賀県立九州シンクロトロン光研究センター、佐賀大学シンクロトロン光応用研究センター、産業技術総合研究所分析計測標準研究部門、自然科学研究機構分子科学研究所極端紫外光研究施設、東京大学物性研究所軌道放射物性研究施設、東京大学放射光分野融合国際卓越拠点、東京理科大学総合研究院赤外自由電子レーザー研究センター、名古屋大学シンクロトロン光研究センター、日本原子力研究開発機構、日本大学電子線利用研究施設、光科学イノベーションセンター、兵庫県立大学 New SUBARU、広島大学放射光科学研究センター、理化学研究所放射光科学研究センター、立命館大学 SR センター、量子科学技術研究開発機構

■各施設利用者懇談会

VUV・SX高輝度光源利用者懇談会

1月10日（金） 10:00～12:00

（大会議室901 D会場）

SPring-8 ユーザー協同体（SPRUC 評議員会）

1月10日（金） 10:00～12:00

（大会議室902 E会場）

SLiT-J ユーザーコミュニティ総会

1月10日（金） 17:30～19:00

（小ホール1 B会場）

SPring-8 ユーザー協同体（SPRUC 総会）

1月11日（土） 12:00～13:00（大ホール A会場）

PF-ユーザアソシエーション（PF-UA の集い）

1月12日（日） 12:00～13:00

（大会議室901 D会場）

詳細なプログラム等、本シンポジウムに関する詳しい内容は本シンポジウムのホームページをご覧ください。

<http://www.jssrr.jp/jsr2020/>

第33回日本放射光学会年会・放射光科学合同シンポジウム 企業展示会出展社一覧 (2019年11月25日現在)

株式会社アイ・アール・システム	セイコー・イージーアンドジー株式会社
株式会社アイリン真空	/Quantum DETECTOR/CAENels
株式会社アド・サイエンス	株式会社大和テクノシステムズ
株式会社アールアンドケー	タレスジャパン株式会社
株式会社アールデック	中央電子株式会社
株式会社アントンパール・ジャパン	ツジ電子株式会社
イノベーションサイエンス株式会社	有限会社テク
EMF ジャパン株式会社	株式会社テクノエーピー
Excillum AB	株式会社テクノポート
エドワーズ株式会社	株式会社東京インスツルメンツ
NTT アドバンステクノロジー株式会社	東芝エネルギーシステムズ株式会社
MB Scientific AB	株式会社トヤマ
応用光研工業株式会社	仁木工芸株式会社/Huber Diffractionstechnik GmbH & Co. KG
株式会社大阪真空機器製作所	仁木工芸株式会社/ADC USA, Inc.
公益財団法人科学技術交流財団あいちシンクロトロン光センター	ニチコン株式会社
樫山工業株式会社	日本カンタム・デザイン株式会社
カールスルーエ技術研究所 (KIT)・IMT/ microworks/株式会社 ASICON	日本スウェージロック FST 株式会社
キーサイト・テクノロジー株式会社	NEOMAX エンジニアリング株式会社
キャノン電子管デバイス株式会社	伯東株式会社
金属技研株式会社	株式会社パスカル
工藤電機株式会社	浜松ホトニクス株式会社
神津精機株式会社	日立造船株式会社
一般財団法人 高度情報科学技術研究機構	株式会社フィジックステクノロジー
サエス・ゲッターズ・エス・ピー・エー	フォトテクニカ株式会社
公益財団法人 佐賀県地域産業支援センター	株式会社フジキン
九州シンクロトロン光研究センター	株式会社 VIC インターナショナル
株式会社サーモ理工	株式会社ミスト
シエンタオミクロン株式会社	ミリオンテクノロジーズ・キャンベラ株式会社
株式会社ジェイテックコーポレーション	株式会社メレック
株式会社ジェピコ	ラドデバイス株式会社
シグマ光機株式会社	Inprentus Inc./Rigaku Innovative Technologies, Inc.
シャランインスツルメンツ株式会社	株式会社リガク
真空光学株式会社	株式会社理学相原精機
スカンジノバ・システムズ株式会社	ロックゲート株式会社
株式会社鈴木商館	有限会社ワイテック

第33回日本放射光学会年会・放射光科学合同シンポジウム

広告掲載 (2019年11月25日現在)

株式会社アド・サイエンス

エドワーズ株式会社

応用光研工業株式会社

株式会社ジェイテックコーポレーション

真空光学株式会社

株式会社大和テクノシステムズ

ツジ電子株式会社

株式会社テクノエーピー

株式会社東京インスツルメンツ

仁木工芸株式会社

ニチコン株式会社

日本オートマティック・コントロール株式会社

伯東株式会社

株式会社パスカル

株式会社VIC インターナショナル

株式会社フジキン

ラドデバイス株式会社

ロックゲート株式会社

有限会社ワイテック

第33回日本放射光学会年会・放射光科学合同シンポジウム

ランチョンセミナー開催社一覧 (2019年11月25日現在)

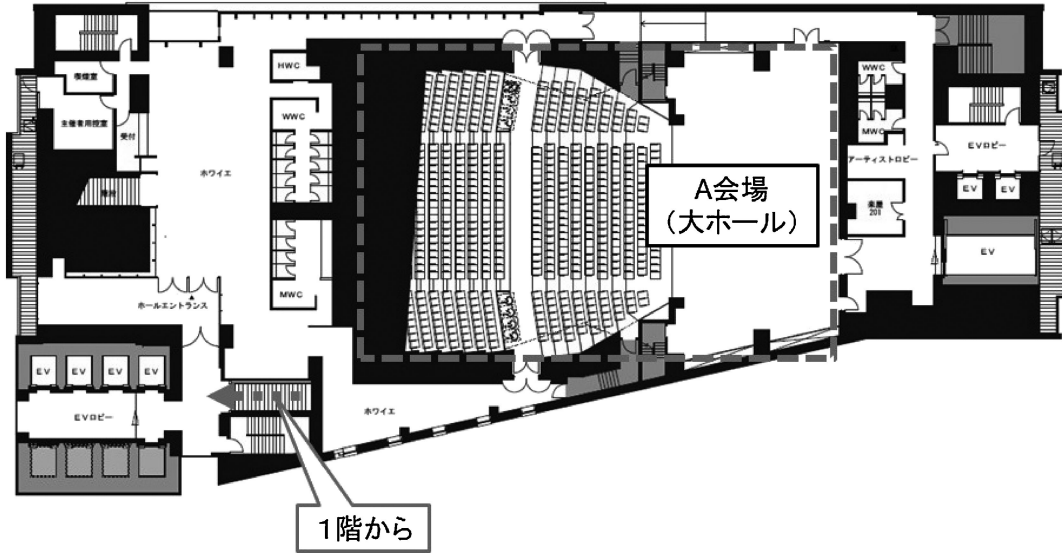
Excillum AB

株式会社ジェイテックコーポレーション

会場案内図

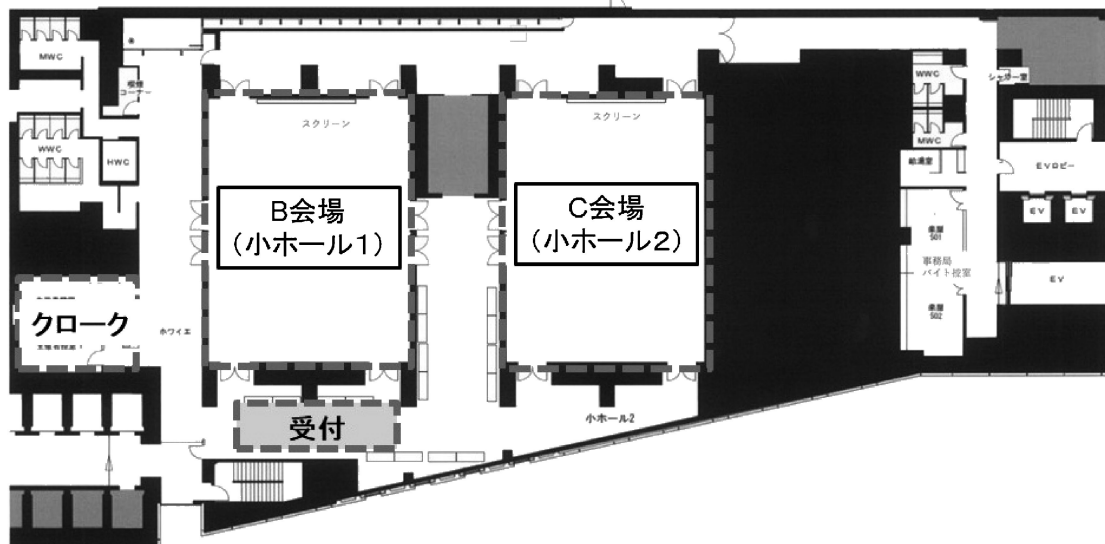
A 会場 (ウインクあいち 2 階大ホール)

(2階)



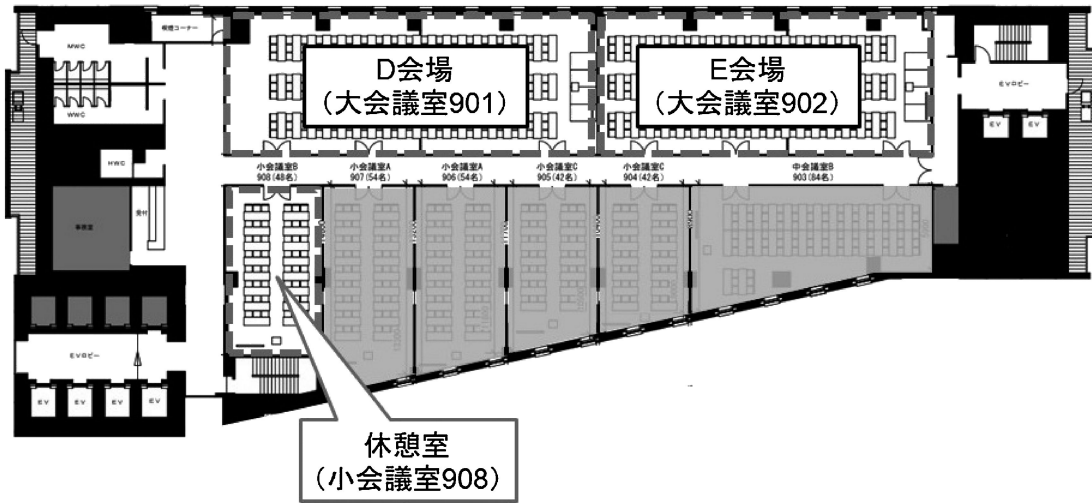
B, C 会場 (ウインクあいち 5 階小ホール 1, 2), 受付 (5 階ホワイエ), クローク

(5階)



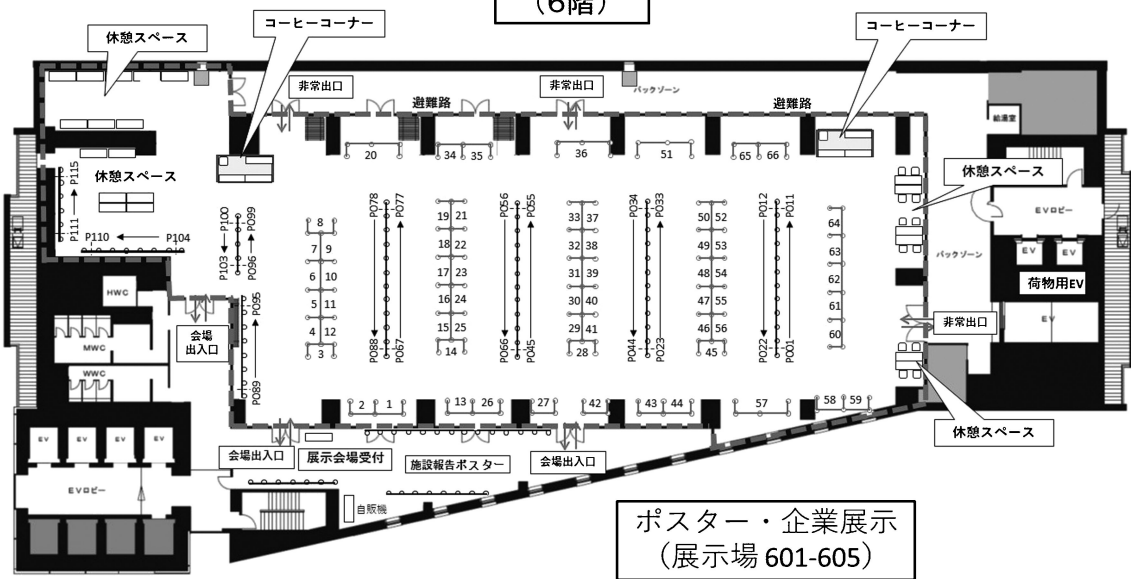
D, E 会場 (ウインクあいち 9 階大会議室901, 902), 休憩室 (小会議室908)

(9階)



ポスター・企業展示会場 (ウインクあいち 6 階展示場)

(6階)



主催 第33回日本放射光学会年会・放射光科学合同シンポジウム組織委員会

共催 日本放射光学会（主幹），名古屋大学シンクロトロン光研究センター，大阪大学蛋白質研究所，科学技術交流財団あいちシンクロトロン光センター，九州大学シンクロトロン光利用研究センター，高エネルギー加速器研究機構物質構造科学研究所・放射光実験施設，高輝度光科学研究センター，佐賀県立九州シンクロトロン光研究センター，佐賀大学シンクロトロン光応用研究センター，産業技術総合研究所分析計測標準研究部門，自然科学研究機構分子科学研究所極端紫外光研究施設，SPring-8 ユーザー協同体（SPRUC），SLiT-J ユーザーコミュニティ，東京大学物性研究所軌道放射物性研究施設，東京大学放射光分野融合国際卓越拠点，東京理科大学総合研究院赤外自由電子レーザー研究センター，日本原子力研究開発機構，日本大学電子線利用研究施設，光科学イノベーションセンター，兵庫県立大学 New SUBARU，PF ユーザーアソシエーション，広島大学放射光科学研究センター，VUV・SX 高輝度光源利用者懇談会，UVSOR 利用者懇談会，理化学研究所放射光科学研究センター，立命館大学 SR センター，量子科学技術研究開発機構

各種委員会

組織委員会（[] は推薦団体，（ ） は所属機関（推薦団体と同一の場合省略）◎は委員長，○は副委員長）

朝倉清高 [日本放射光学会会長（北大）]，井澤和幸 [光科学イノベーション]，今園孝志 [量研機構]，江島丈雄 [SLiT-J]，郭其新 [佐賀大]，木村真一 [年会会計担当，VUV・SX 懇，UVSOR 懇（阪大）]，○組頭広志 [組織委員長（東北大）]，解良聡 [プログラム委員長，副実行委員長（分子研）]，香村芳樹 [理研]，小島一男 [立命館大 SR]，小嗣真人 [副組織委員長（東理大）]，櫻吉晴 [JASRI]，島田賢也 [HISOR]，杉山武晴 [九大]，妹尾与志木 [SAGA-LS]，曾田一雄 [実行委員長（名大）]，高橋嘉夫 [放射光学会会計幹事（東大）]，竹田美和 [副実行委員長（AichiSR）]，田中清尚 [副プログラム委員長（分子研）]，田中秀明 [阪大蛋白研]，田中義人 [SPRUC]，築山光一 [東京理科大]，土井玲祐 [原子力機構]，豊川弘之 [産総研]，早川恭史 [日大]，伏信進矢 [PF-UA]，船守展正 [KEK-PF]，宮崎誠一 [副実行委員長（名大シンクロトロン）]，矢治光一郎 [東大物性研，東大放射光分野融合国際]，渡邊健夫 [兵庫県立大]

プログラム委員会（○は委員長）

秋葉勇 [北九大]，阿部仁 [KEK-PF]，五十嵐教之 [KEK-PF]，池本夕佳 [JASRI]，井上伊知郎 [理研]，今井康彦 [JASRI]，入澤明典 [阪大]，岩山洋士 [分子研]，大東琢治 [分子研]，金安達夫 [SAGA-LS]，河村直己 [JASRI]，木村真一 [年会会計担当（阪大）]，組頭広志 [組織委員長（東北大学）]，○解良聡 [プログラム委員長，副実行委員長（分子研）]，小林正起 [東大]，白澤徹郎 [産総研]，瀬戸山寛之 [SAGA-LS]，曾田一雄 [実行委員長（名大）]，滝沢優 [立命館大]，田口宗孝 [東芝ナノアナリシス]，竹内晃久 [JASRI]，竹田美和 [副実行委員長（AichiSR）]，田中清尚 [副プログラム委員長（分子科学研究所）]，谷田肇 [原研]，登野健介 [JASRI]，中川剛志 [九大]，原田健太郎 [KEK-PF]，東浦彰史 [広大]，平野馨一 [KEK-PF]，細川伸 [熊大]，松井文彦 [プログラム委員補佐（分子研）]，宮崎誠一 [副実行委員長（名大シンクロトロン）]，宮本幸治 [広大]，山崎裕史 [JASRI]，山田悠介 [KEK-PF]，横山利彦 [分子研]，若林裕助 [東北大]，和田真一 [広大]

実行委員会（○は委員長）

池永英司 [名大]，石田孝司 [名大シンクロトロン]，伊藤孝寛 [名大シンクロトロン]，上原康 [AichiSR]，陰地宏 [名大シンクロトロン]，大野慈子 [名大シンクロトロン]，小川智史 [名大]，小野泰輔 [デンソー]，郭磊 [名大シンクロトロン]，木村耕治 [名工大]，木村真一 [年会会計担当（阪大）]，組頭広志 [組織委員長（東北大）]，解良聡 [プログラム委員長，副実行委員長（分子研）]，杉本泰伸 [名大シンクロトロン]，鈴木均 [名大シンクロトロン]，○曾田一雄 [実行委員長（名大）]，高倉将一 [名大シンクロトロン]，高嶋圭史 [名大シンクロトロン]，高濱謙太郎 [名大シンクロトロン]，竹田美和 [副実行委員長（AichiSR）]，田中清尚 [副プログラム委員長（分子研）]，田淵雅夫 [名大シンクロトロン]，塚田千恵 [名大シンクロトロン]，堂前和彦 [株式会社豊田中央研究所]，永見哲夫 [AichiSR]，永江峰幸 [名大シンクロトロン]，榎野友栄 [名大シンクロトロン]，林好一 [名工大]，船橋典子 [名大シンクロトロン]，保坂将人 [名大シンクロトロン]，松井文彦 [プログラム委員補佐（分子研）]，松波雅治 [豊田工大]，真野篤志 [名大シンクロトロン]，宮崎誠一 [副実行委員長（名大シンクロトロン）]，宮崎秀俊 [名工大]，村木亜矢子 [名大シンクロトロン]，渡辺義夫 [AichiSR]